

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-8 食の安全の確保

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

薬事衛生課長 伊藤 耕

電話番号

0852-22-5257

事務事業の名称	食品衛生対策推進事業	
目的	(1) 対象	食品関係施設を利用する人、食品を購入する人
	(2) 意図	食品等に起因する健康被害を防止する
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 食品衛生関係指導・育成事業：衛生管理の向上のため、食品関係業者に対して、講習会の実施や指導・助言を行う。 食品衛生法等による許可・監視・検査・指導：不適食品を排除するため、食品関係業者等に対して、法に基づき許可・監視・検査・指導を行う。 食品衛生に関する啓発・情報発信事業：衛生知識の普及のため、消費者に対して、講習会の実施やTVスポットの配信等を行う。 	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	食中毒発生件数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		7.00	7.00	7.00	7.00	
式・定義	食中毒発生件数	実績値	16.00	7.00	13.00	11.00			
		達成率		100.00	14.30	42.90			%
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	43,273	45,113
うち一般財源(千円)	20,861	21,835

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成26年度の食中毒発生件数は11件であり、昨年度の13件よりも減少したものの目標値の7件以下を上回った。内訳は、ノロウイルス3件、ウエルシュ菌2件、カンピロバクター1件、動物性自然毒（フグ）2件、植物性自然毒（スイセン）1件、アレルギー（アニサキス）1件及び不明1件であった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・平成26年度の食中毒発生件数は11件で、昨年度の13件と比較して減少した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・ノロウイルスによる食中毒が依然として多い。

②困っている状況が発生している「原因」

・ノロウイルスは、感染力が強く少ないウイルス量でも感染する。

③原因を解消するための「課題」

・加熱調理食品の加熱温度管理、調理従事者の健康管理、調理従事者等に起因する食品の二次汚染の防止等、ノロウイルス対策を前提とした食中毒の発生防止対策の徹底に加え、調理従事者の健康確認に視点を置いた施設点検表を取り入れた監視指導を実施する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・食中毒予防対策として、食品取り扱い施設の監視並びに食品事業者の講習会の実施、食中毒注意報・警報の発表などにより県民等に対するノロウイルスなどによる食中毒の発生防止について注意喚起を行っており、引き続き、関係者や県民に対して様々な媒体、講習会等を利用し啓発を行っていく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）